資料１

　　　　　　　高次脳機能障がい支援連携ツール　予備実施結果まとめ　　　　　　　　H28.12.5

◆予備実施の目的

　１．様式の使い勝手の検討

障がい者医療・リハビリテーションセンター（以下「リハセン」という。）の3機関と堺市の生活リハビリテーションセンター（以下「生活リハ」という。）を合わせた4機関で受け持ったケースから抽出した事例を様式に記入し、様式の使い勝手をチェックする。

《事例の概要》

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| リハセン | 府立障がい者自立センター | 入所で施設を利用中の３事例 | 合計１７ケース |
| 府障がい者自立相談支援センター | 支援者との関係性構築が難しい３事例地域の支援者に繫げようとしている３事例小児の１事例 |
| 府立急性期・総合医療センター | 外来通院患者の２事例 |
| 堺生活リハ | 自立訓練利用中の５事例 |

　２．当事者や家族の支援連携ツールの受けとめの確認

　　府立障がい者自立センターの利用者（６人）・家族（2家族）に支援連携ツールの説明を行い、その受けとめ方について聞き取る。

◆結果

　１．様式の使い勝手の検討

　　①「支援経過表」については、整理できる内容が項目別に分かれていることで、かえって把握しにくいという意見があり、事例について全体的に時系列に沿って整理できるように修正した。

生活情報と神経心理学的検査結果等の様式は、それぞれ、基礎情報、医療情報の内容に重複している部分があったため、それを整理して様式をよりコンパクトにすることにした。

|  |  |
| --- | --- |
| 変更前 | 変更後 |
| 「様式２支援機関一覧表」 | 「全体支援経過表」に統合し、新様式１に |
| 「様式５生活情報」 | 「基礎情報」に統合し、新様式２に |
| 「様式７神経心理学的検査結果等」 | 「医療情報」に統合し、新様式３－２に |

　　②前回のWG等での意見を踏まえ、「様式３　医療情報」「様式５　高次脳機能障がいチェックリスト」の内容を修正した。

　　　⇒「様式３－１　３－２　医療情報」：医療機関に直接情報提供を依頼する際、現在の医療情報の様式では、医療機関側に作成しづらさがあると考える。そのため、地域での医療や支援に必要と思われる情報の項目を記載し、情報提供依頼の際に使用するシートを新たに作成した（新様式３－１）

⇒「様式５　高次脳機能障がいチェックリスト」：評価が2段階（「はい」、「いいえ」）では不十分であるという意見をふまえ、3段階（「ときどき」を追加）とした。

　　③記載方法がわかりにくいと感じた部分については、マニュアルで記載例を含め解説を加えることとした。

|  |  |
| --- | --- |
| 記載方法がわかりにくい部分 | マニュアルにいれるべき内容 |
| 本人が子どもの場合、「基礎情報」の経済状況をどのように書いたら良いのかがわかりにくい | 経済状況についての書き方説明子どもの場合は未記入でよい。 |
| 他の家族に障がいがあるかなど、本人の支援には大きく影響するが、どこにどう書いたら良いかわかりにくい。 | 家族の支援者の有無や状況を記載基礎情報のジェノグラムにて明記 |
| チェックリスト「代償手段など」をどのように書くのかわかりにくい | 記載例をあげ、記入する際のポイントを示した。 |
| チェックリスト「㉑易疲労性」「㉖移動」について判断に迷う | 記載例をあげ、チェックする際のポイントを示した |
| 就労情報の職歴の範囲がわかりにくい | アルバイトを含めて記入する |
| 就労情報の記入をする時期がいつなのか、わかりにくい | 具体的な就労支援場面以外にも、就労に対する本人の思いや希望などを聞き取り情報の整理をする際に、支援機関が記入することを想定している |

④参考資料「高次脳機能障がい　生活の大変さ指標」について、「高次脳機能障がい　確認リスト」の項目に揃え、また文言についても全体的に見直しをした。

２．当事者や家族の支援連携ツールの受けとめの確認

　　「支援連携ツール」という名前で内容を説明すると「難しそう」という意見があった。また、このツールを使うメリットとして「年金申請等の時に役立つ」ということを伝えると「是非、使いたい」という反応が返ってきた。

　　⇒　①名称をよりメリットが伝わるようなものに変更したらどうか？

案：「（つこたら）ええでノート～高次脳便利帳」

　　　　②マニュアルには、使う上でのメリットと、当事者・家族にメリットを伝えることで利用の抵抗感が薄れることを解説にいれることとする。

「高次脳機能障がい　チェックリスト」という名称は、本人の立場から見た時に好ましくないのではないかという意見があった。

⇒①名称を「高次脳機能障がい　確認リスト」に変更する。